

パネルディスカッション：装置系次世代育成

パネリスト

- 大金原 (ANU)
- 大宮正士 (ABC)
- 櫛引洸佑 (東京大学)
- 瀧本幸司 (ISAS)
- 津村耕司 (東京都市大学)
- 東谷千比呂 (NAOJ)

I. 背景説明

- 光赤外線のさまざまな観測施設・装置のプロジェクトが提案されています。
- しかし、その開発を担う研究者の高齢化が進んでおり、若手研究者の数が非常に少なくなっています。
- この背景には何があるのか、どのような解決策があるのかを議論できればと考えています。

もくじ

1. 背景説明

2. パネリスト自己紹介

3. パネルディスカッション

「装置開発に携わる院生・若手研究者をどのように育成したらいいのか」

- なぜ装置開発を研究テーマとしたのか
 - 開発を研究テーマとすることの面白さ、難しさ
 - 大型計画への関わり方
 - 産業界との連携および人材交流
 - 他分野からの人材流入
- 

問題意識

- 大金
 - 計画規模の拡大に人が足りていない
=>多様なバックグラウンド、専門家・エンジニアに入ってもらおう
- 大宮
 - 戦略的に人材育成されているか
 - キャリアの途中で装置開発をやりたくなったら？
 - 夢があるか
- 櫛引
 - 開発系人材をどう評価するか
 - 若手が装置開発に触れる機会を増やす
 - 若い人が少ない、他分野、民間との取り合い
 - 装置開発に対する若手の認知度が低いのではないか
- 瀧本
 - ギャンブル性が高い
 - 若手をどう増やすか：ロケットや超小型衛星は魅力的。ワンオペでできる
 - 大型衛星計画には20-30代では経験がない
 - 産学官連携は拡大強化がいる。
 - 他分野からの流入を望んだとして、誰がくるか？
- 津村
 - 人材育成を目的としたプロジェクトがいる
 - プロジェクト横断的に技術相談できるポストを
- 東谷